

このように、京都では、寺社の門前町や、近代の伝統と進取の気風の地において、美術品を扱うことを生業とする町が形成され、そこでは現在でもそれらの営みが続けられている。それらの町で、町家等の歴史的建造物に美術品や関連の品々が並べられ、数々の趣きある店が町並みを形成している。

店内のしつらえや美術品などが京都の美術の歴史を感じさせるとともに、門前町と近代の伝統、進取の気風の地が融合された風情を楽しませる。



写真2-92 新門前の店舗

イ 文化・芸術のまち京都に見る歴史的風致

例に示した以外にも、京都では様々な芸術・文化活動が行われている。香木を焚きその香りを聞く香道では、老舗において香道の教室が開かれ、また、嗜みとして匂い袋をしのばせる人もある。さらに、茶の湯とともに煎茶も寺社等で茶会などが行われているなど、その分野は多岐に渡っている。

このように、京都では、これらそれぞれの営みが、寺社をはじめとする歴史的な建造物や町並みの中で繰り広げられ、その音や彩色、取り巻く雰囲気は、歴史の重層性と伝統の重さ、そして京都の芸術・文化の奥深さを感じさせ、今なお京都が芸術・文化のまちとしての地位を保っていることを感じさせる。

—伝統と進取の気風の地—

(1) 古都の再生と文教地区の形成

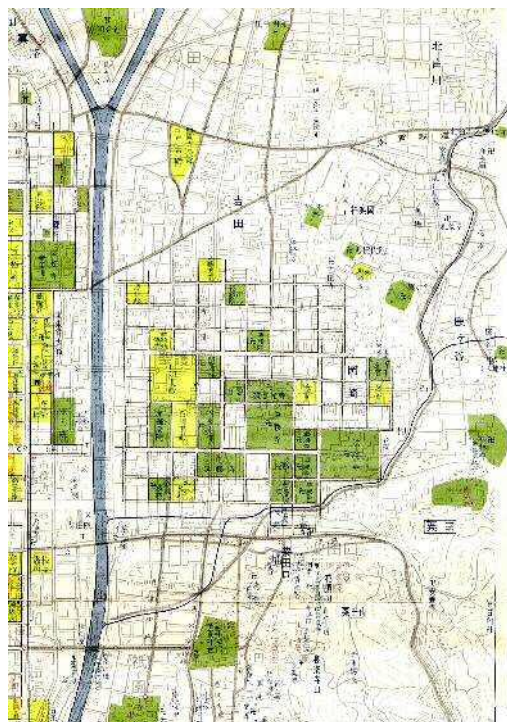


図2-61-1 院政の頃の白河 出典 京都の歴史2

明治維新により、京都は東京遷都という大きな変動を迎えた。天皇だけでなく、新政府の官僚、多くの公家衆、各藩の京都詰役人、そして一部の御用商人も京都を離れた。そんな逆境にも負けず、伝統と進取の気風を併せ持つ京都の人々は、再生に向かって自前の産業や都市機能を作り上げ、近代化を成し遂げた。その象徴として琵琶湖疏水があり、建都千百年記念事業の開催地である岡崎がある。

この項では、まず近代化に大きな役割を果たした、白川の扇状地に広がる岡崎・吉田及びその周辺（以下、「白河（岡崎・吉田）」という。）の近世以前までの歴史的背景を示すとともに、近代化の象徴である琵琶湖疏水について示し、そのうえで、白河（岡崎・吉田）についての歴史的風致を示していく。

ア 白河（岡崎・吉田）の歴史

(1) 近世までの歴史

東山の麓に位置する白河（岡崎・吉田）は、白川の扇状地として広がりを持ち、背後に東山を従えた自然風景豊かな土地であって、平安時代前期より藤原氏等の別業が多く営まれる土地であった。

院政期には、白河天皇による法勝寺をはじめとする六勝寺が造営されるとともに、院御所である白河殿が造営された。この地が院政の中心地とな